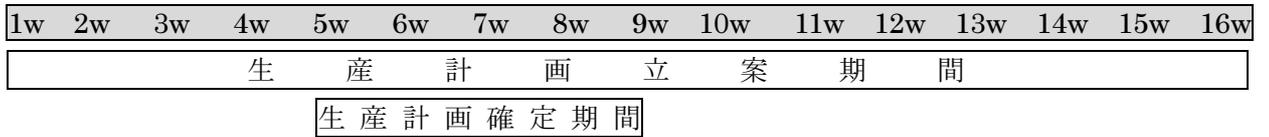


第3章-2. 『所要量計算』生産計画とオーダーリリースの考え方

このオーダー状況の設定の考え方と関連処理について説明します。

(1) 生産計画立案



(2) 所要量計算展開

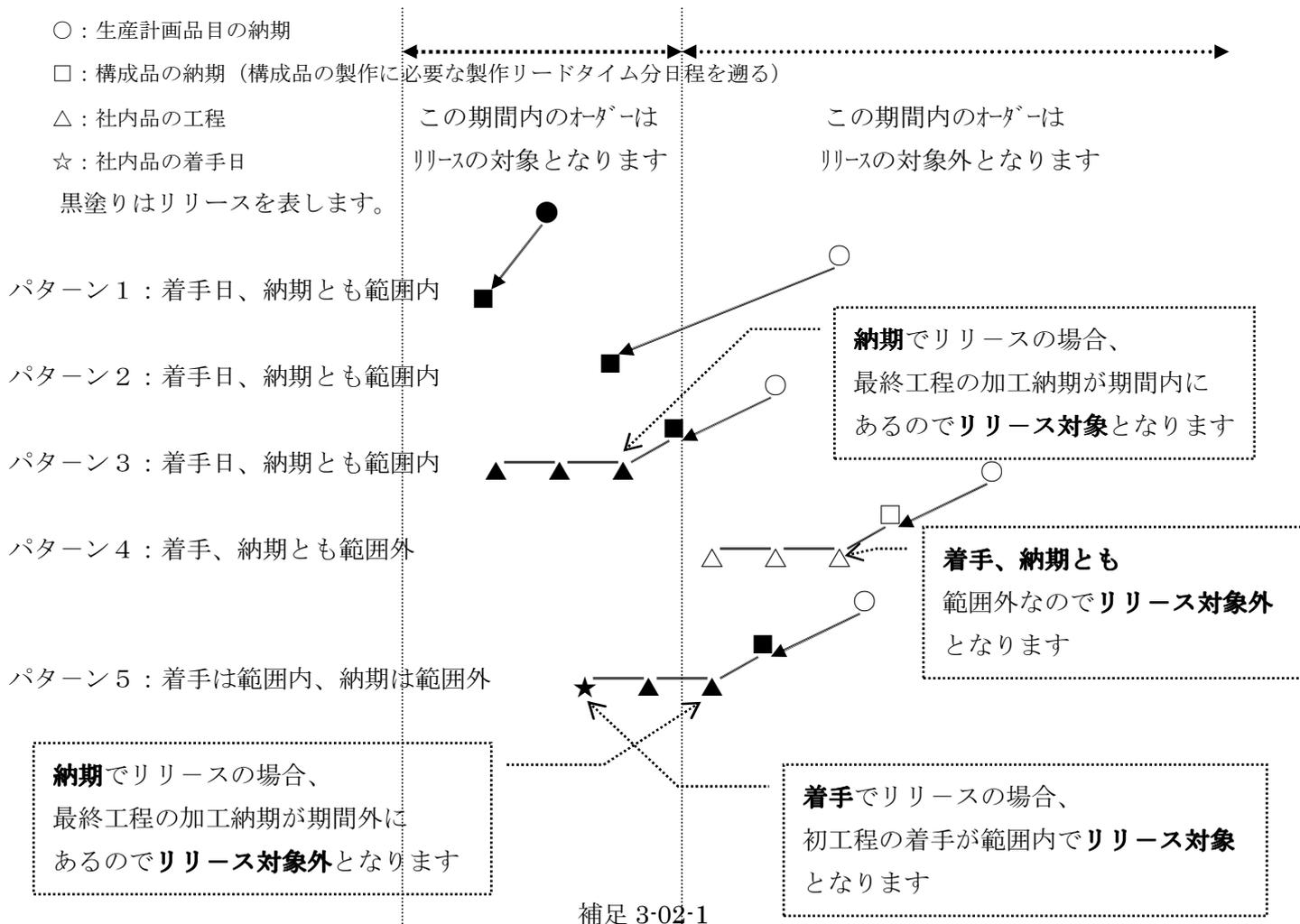


〔生産計画品目と構成品との必要納期及びリリースの関連〕

リリース範囲を確定するには、a. 納期でリリースを行なう場合とb. 着手日でリリースを行なう場合の2通りがあります。

- a. 納期 : MRP 処理で設定された品目の納期をベースに範囲を確定します。
- b. 着手日 : MRP 処理で設定された品目の納期から標準リードタイム分を遡った日付をベースにします。

以下に確定範囲の例を示します。



【購買品のリリース】 リリース期間内（今回オーダー確定期間）にあるオーダーは、所要量計算でリリースオーダー（オーダー状況：R）として作成します。

【社内加工品のリリース】

- a. リリース期間内にあるオーダーは、所要量計算でオープンオーダーリリースオーダー（オーダー状況：R）として作成します。
- b. 社内加工品において着手日でリリースする場合は、初工程がリリース対象となると、同一品目の全工程がリリース対象となります。

【リリース種類の考慮点】

納期指定：リリース範囲が納期の場合は、オーダー管理(未納管理、催促指示)は易しくなります。

（オーダーが納期で区切られている為、指示済みと未指示の切り分けが判り易い）

その反面、リードタイムが長い品目の場合は、製造の着手が短納期やリードタイム不足になり、製造側に負担が掛かる可能性があります。

着手日指定：リリース範囲が着手日の場合は、製造側から見ると着手が確保されている為、製造管理はし易い事になります。

ただし、オーダー管理の面から見ると、納期がバラバラになる為、一括管理は困難な場合があります。リードタイムが長い品目になると突出した納期でオーダーされます。